

温かい子どもを大切に

園児と日々を過ごしていくなかで、子どもたちから心温まるつぶやきをよく聞くことがあります。

雨雲さんが水やり当番

年長児の子どもたちの当番活動のなかに、園庭の花の水やり当番があります。小さなじょうろを使って、いつも張り切って水をあげてくれます。ある日

雨が降ったため、水やり当番が休みになる日がありました。その時、空を見上げながら、「今日の水やり当番さんは、雲さんだね。たくさんお水をあげてくれて、お花さんも喜んでるかなあ。よかったね。」

おもちゃをつくるのは？

園の行事のなかに、お餅つきがあります。その日が近づいてきたある日、子どもたちがお餅つきについて話をしていった時のことです。

「月でお餅をついているのはだーれだ？」

「知っているよ。うさぎさん。」

「でもね、他の動物もいるよ。月の裏側にいるからここからは見えないだけだね。」

お日さまもおじいちゃん

子どもたちが手をつないで歩いていく遠足があった時のことです。前日雨が降り、翌日の遠足に行けるかどうか心配でしたが、なんとか雨も上がり行くことができました。

「先生、お天気になってよかつ

たね。きつとお日さまが、おりこうさんのみんなのお願いを聞いてくれたんだね。お日さまもおりこうさんだね。」



ときどき、私たちが気付かないこと、思いもつかないことを子どもたちの視点からとらえて話してくれます。そして、その話に出てくる物事や生き物などに対しては、友だちであるかのように話をしていて、子どもたちのなかで生きていくかのようです。そのような温かい気持ちで様々なものを見つめ、想像をふくらまし、素直に表現している心を持って成長して欲しいと思います。

笠松幼稚園

教諭 松原 玲子

教育委員会
だより

安心・安全な学校づくり

「1:29:300」という数字があります。これは「ハイリッヒの法則」と言われるものです。重大災害が1あると、その背景に軽傷の事故が29、無傷の災害が300あるというのです。最近ちよつとしたケガが多いなあ、という段階で「これは危ないぞ」と自覚し、事故などを未然に防ぐことが大切になるのです。

- 「学校における危機」は、傷病、地震や洪水などの自然災害、侵入者などによる傷害事件、火災などが考えられます。学校では、安心して過ごすことができる安全な学校をつくるために、次のことを大切にして実践しています。
- 一 危険予測の能力を高める。
 - 二 様々な情報から必要なものをつかみ、的確な判断をする。
 - 三 聞く・避難するなど適切な行動がとれる。
 - 四 行動マニュアルを理解したうえで、機能的・臨機応変に対応できる組織の確立を図る。
 - 五 施設・設備・備品など安全で清潔な環境を維持管理する。

子ども達に「危機回避能力」と「緊急事態発生時の対応能力」を付けるために、ご家庭や地域で日常的に次のことを実践すると効果的だと思います。

「教える」と「考えさせる」をうまく使い、危機回避の基礎知識を数えたり「あなたならどうする」と問い掛けたりして自己判断力を育てる。災害など発生時の行動や緊急避難場所などについて家族で話し合いを持つ。など

様々な、思いもかけない事件や事故・災害が起きる現代事件や事故・災害発生時を機に考えてみてはどうでしょう。

教育委員会の名称が変わります

羽島郡三町教育委員会に名称変更
教育委員会の名称が11月1日から羽島郡三町教育委員会に変わります。これは、川島町が各務原市との合併に伴い、羽島郡内で共同設置する教育委員会から脱退するためです。
なお、教育委員会の所在地や電話番号などは変わりません。